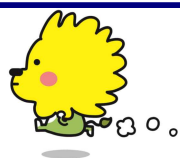


## センターだより



No.157 (令和元年冬号)

## 1 阿南市子どもフェスティバル

10月27日(日)午前9時よりスポーツ総合センターで開催されたフェスティバルに当センターも毎年参加しています。そして、毎回阿南市内の高校生にボランティア協力をお願いしています。今年には阿南光高校の皆さんが参加してくれました。笑顔いっぱい・爽やかに・優しく・丁寧な対応はとても良い雰囲気でした。ありがとうございました。



非行防止を啓発するチラシやグッズなどを配布し、地域ぐるみでの健全育成を呼びかけました。



毎年恒例ですが、今年も多くの方々とお話することができました。楽しく有意義でした。ありがとうございました。

## 2 オンラインゲーム(やめられない・抜けられない)

## (1)「荒野行動」が話題の中心

最近の子ども、特に男子は『荒野行動』がやめられない」と話します。「やりだしたら止まらない」「睡眠不足の子が多い」、いかに自分たちが夢中になっているかを話し続けます。

## (2)「荒野行動」とは

最近、急激に広まっている、子どもたちに大人気のゲームです。

100人で無人島にパラシュートで降り立ち、殺し合いをして、最後まで生き残った人が勝ちです。拳銃や手榴弾等の武器や弾薬、車等を獲得しながら、無人島を駆け回り、殺し合います。最大5人で協力しながらゲームを進めることと、ボイスチャット(話しながらゲームができる機能)が特徴です。最初はなかなかうまくいかず、すぐに殺されてゲームオーバー。かなり熟達しないと勝てません。

そのため、彼らはユーチューブの「ゲーム実況」で研究します。ゲームの画面を映し、実況中継するのを見ながらひたすら「研究」します。実際、「最初はゲームするよりゲーム実況の時間の方が長い」と話します。「5人で協力」というのがやっかいで、なかなか抜けられません。1人が抜けるとチーム力が下がり殺されます。抜けると「つきあい悪いな」となります。

## (3)「フォートナイト」

2018年に日本語版が配信されてから2019年には1000万人以上が同時接続し、**欧米では社会現象**にもなっています。今や「荒野行動」よりも高い人気を誇っているゲームのようです。

複数のプレイヤーが協力し、拠点を守ったり、生存者救出、アイテム探索といった、生き残りの人間達が世界を救う戦いをを行います。「バトルロイヤルモード」では、最大100人で他のプレイヤーを全て倒し、最後の1人、あるいは1チームになると優勝(ビクトリーロイヤル)となるゲームです。

子どもたちが学校でプレイすることをやめてくれないとの苦情から、イギリスの複数の大手メディアからは子供への悪影響であるとして『フォートナイト』への批判があったり、ニュージーランドで2019年3月15日に起きた**クライストチャーチモスク銃乱射事件**の犯人が『フォートナイト』が私を殺人者になるべく訓練してくれた」などと述べているそうです。

## (4)大人は知らない。では、すまされない

司会:「親は反対しないの?」

A男:「先に寝るから知らない」

B男:「親もスマホ依存だから強く言えない」

C男:「最初は怒ってたけど諦めた」



2005年、韓国で86時間ぶっ続けでオンラインゲームをしていて死亡した若者がいました。当時、韓国の若者たちはパソコンで、オンラインゲームに夢中になっていました。事態を重く見た韓国社会は、通称「シンデレラ法」(2011年)をつくって**16歳未満の0時から6時までのオンラインゲームを禁止**しました。

2019年11月5日、中国政府が「**未成年オンラインゲーム中毒防止に関する通知**」を発表しました。中国内でサービスされているオンラインゲームを対象に、未成年(中国では**18歳未満**)のプレイヤーに対し、**22:00~翌8:00はログイン不可**、土日・祝日は3時間まで、平日は1.5時間までのプレイ時間制限と課金についても制限が課せられるというものです。

時代が流れ、スマホでリアルな戦闘ゲームができるようになり、日本の子どもたちも夢中になっています。日本では「ネトゲ廃人」「ネトゲ廃女」などの問題を扱った書物が出版されたり、『ラグナロクオンライン』のヘビー・ユーザーとして知られる声優の植田佳奈が「**現実世界は出稼ぎ、ネット社会が現実**」と発言して物議を醸しました。

折しも、WHO(世界保健機関)が**ゲーム依存を『病気』と認定**しました。これを契機に私たちの社会も若者のネットゲームの問題に真剣に取り組まないと大変なことになると思います。社会全体で対策を講じることが急務になっています。

【参考】①月刊生徒指導2017 文教大学人間科学部教授 石橋昭良

②月刊生徒指導2018 兵庫県立大学准教授 竹内和雄